

# 怒りの葡萄

## 映画文学人生論

John Steinbeck *The Grapes of Wrath* (1939)

伏見威蕃訳『怒りの葡萄』(2117)「新潮文庫」

映画：『怒りの葡萄』(1940)

監督：ジョン・フォード

出演：トム・ジョード ヘンリー・フォンダ  
トムの母 ジェーン・ダーウエル

中国人、日本人、メキシコ人、フィリピン人、彼らは米や豆を食べて生きている

第一次世界大戦と第二次世界大戦とのつかの間  
の平和な時代に世界的な規模の大恐慌があった。  
世界大戦の勝者であるアメリカでも生きることが  
困難な生存競争の時代だ。そんな悲惨な境遇にお  
ちこんだ人々の運命を描いた宗教的プロレタリア  
小説がスタインベック『怒りの葡萄』である。  
なぜ葡萄は怒るのか。なぜ米や豆は怒らないの  
か。

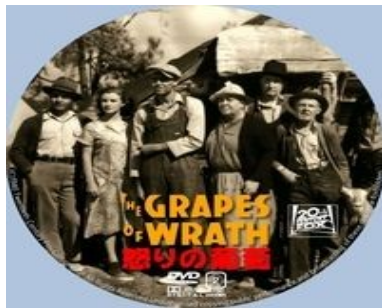
いまや農業は産業になり、農場主はそれと気づ  
かずにローマに倣(なら)った。奴隷とは呼ばれ  
なかったが、世界の各地から奴隷なみ人間を連れ  
てきたのだ。中国人、日本人、メキシコ人、フィ  
リピン人、彼らは米や豆を食べて生きていると実  
業家はいった。手がかからない。賃金をはずんで  
も、使い道がわからない。あの暮らしぶりを見ろ  
よ、あの食い物をみろよ。それにやつらが妙な気  
を起したら、国外追放すればよい。

当時の中国人や日本人の移民がどんなに悲惨な  
境遇だったかは、この描写からだけでもある程度  
は伝わってくるが、この小説の主人公は中国人や  
日本人の移民ではない。オーキーと呼ばれるアメ  
リカ人の貧しい人々だ。

オーキーとはオクラホマ州の住民のことで、も  
しかしたらインジャン(インディアン)の血が混

# 怒りの葡萄

映画文学人生論



じっているかもしれない。同州はもともと先住民インディアン（インディアン）部族のほとんどを強制移住させる目的で作られた州である。他の州に比べ、インディアンの保留地が多い。

白人たちは旧大陸から移住してきた。イングラド、スコットランド、アイルランド、ドイツ、フランス、イタリア、ロシア、東欧、北欧等々。七代前の先祖までさかのぼれるアメリカ人はほとんどいない、

大恐慌に続く一九三十年代のアメリカ中西部。オクラホマ州などではダストボウル（土地の荒廃による砂嵐）により農地の耕作が困難になった。カンザス、アーカンソー、オクラホマ、テキサス、ニューメキシコではトラクターがはいつてきて、小作人を追い出した。ジョード一家は仕事があるというビラを見て、カリフォルニア州に移住することになった。

アメリカ大陸は広い。オクラホマからカリフォルニアまでの旅を歩くわけにはいかない。ジョード一家はすべての家財を叩き売り、中古のトラックを買った。貧乏人でもおんぼろトラックを手に入れて西へ移動する選択肢があったことはアメリカの底力を示すが、トラックがなければジョード一家はオクラホマからカリフォルニアへは行けない。やっとたどりついた彼らの運命や如何に？

どこへ行くの？ 女房がたずねる

わからない。どうしたものかな。